

「令和8年度病害虫発生予報第1号」の発表について

○今後の主要な病害虫の発生予察情報（発生予報）については次のとおりです。

- ・ 麦では、赤かび病の発生が、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 野菜・花きでは、いちごのハダニ類の発生が、北陸、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。
- ・ 果樹カメムシ類の発生が、近畿及び北九州の一部の地域で多くなると予想されています。

この他、かんきつのハダニ類、きゅうりのべと病等、地域によっては多くなると予想されている病害虫があるので注意してください。

国の発生予察情報について

国は都道府県の協力の下、植物防疫法（昭和25年法律第151号）に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

本予報は、都道府県が提供する発生予察情報を取りまとめた情報になりますので、地域における情報の詳細は、都道府県病害虫防除所のホームページ等を参照してください。

国の病害虫発生予察情報及び都道府県病害虫防除所のリンク

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/index.html>

総合防除の実践

温暖化等の気候変動や薬剤抵抗性の発達等を背景に、病害虫・雑草への対応が年々難しくなっています。

このため、消費者に支持される食料の安定的な供給が確保されるよう、「予防・予察」に重点を置いた総合防除によって、病害虫・雑草が発生及び増加しづらい生産環境を整え、持続的かつ効果的な防除を適時適切に実施し、病害虫・雑草のまん延防止及び農作物への損害の発生を軽減することが重要です。

- ・ 総合防除実践ガイドライン

参照URL：https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-34.pdf

- ・ 総合防除実践マニュアル

参照URL：https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_ipm/attach/pdf/index-44.pdf

気象

気象庁の向こう1か月の予報（4月9日付け）では、気温は全国で高いと予想されています。降水量は東日本太平洋側及び西日本で平年並か多い、北日本、東日本日本海側でほぼ平年並み、

沖縄・奄美で少ないと予想されています。

気象庁ホームページ

参照URL: <https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010000&term=P1M>
(外部リンク)

・いもち病、もみ枯細菌病、ばか苗病等の種子伝染性病害の発生が昨年多かった地域では、種子消毒を的確に実施し、健全な苗の育成に努めてください。薬剤感受性の低下がみられる場合があるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、効果の高い薬剤を選定し種子消毒を実施してください。また、塩水選や温湯消毒といった物理的防除を実施する場合には、消毒効果を確実に得られるように、病虫害防除所等が示す手順・方法に沿って適切に実施してください。

・縞葉枯病は、ヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病であり、経卵伝染するため、本虫を対象とした防除を実施することが重要です。本虫の生息場所となる畦畔や農道等の水田周辺の除草を実施して下さい。また、本ウイルスを保毒している本虫の割合が高まっている地域では、育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

・トビイロウンカは、その年の気象条件や飛来量によっては大きな被害を引き起こします。本虫による被害の発生が懸念される地域では、収量の確保に向け効果の高い育苗箱施用剤による防除の実施についても検討してください。

・斑点米カメムシ類は、気象庁の向こう1か月の予報では、全国的に気温は高いと予想されていることから、早期に活動を開始し、発生量の増加につながるおそれがあります。このため、発生状況を注視するとともに、発生量に応じて、適時・適切に防除できるよう準備しましょう。また、水田周辺の除草は、斑点米カメムシ類の発生量を抑制することができ、地域一斉で除草を行うと効果的とされていますので、地域一斉の除草についても検討しましょう。

・イネカメムシは、斑点米だけでなく、不稔被害も引き起こす斑点米カメムシ類の一種で、近年、発生の増加が報告されています。イネカメムシによる不稔を防止するためには、他の主要な斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に防除を行うことが重要です。不稔を防止するため、過去から発生量が多い、または発生量が増加傾向の地域では、収量の確保に向けて出穂期に防除できる防除計画を立てましょう。

・斑点米カメムシ類の防除

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html#hanntenmaikamemusirui>

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）は、昨冬の気温が全国的に高かったことから、本貝の発生地域では、多くの個体が越冬しているおそれがあります。今春の被害を抑えるため、移植前に取水口・排水口にネットや金網を設置し、本貝の侵入を防止するとともに、水田内の発生が多い場合には、植代前の石灰窒素の散布の実施を検討してください。また、移植時は薬剤散布を実施し、移植後は水深を4cm（理想は1cm）以下に維持する浅水管理を実施してください。

本貝は、農機具・機械に付着した泥とともに他のほ場へ拡散するおそれがあります。そのため、発生ほ場で農機具・機械を使用した後は泥をよく落としてから移動させてください。なお、一旦定着した本貝を根絶することは困難なこと、また周辺の水田にも悪影響が及ぶことから、除草目的であっても、未発生地域や被害防止に取り組む地域での本貝の放飼は行わないでください。

農林水産省では、被害防止対策に関するマニュアルや動画などをホームページに掲載しています。また、農研機構植物防疫研究部門を代表機関とするコンソーシアムが、防除技術、リスク地図等を紹介する「スクミリンゴガイの防除支援マニュアル」を下記URLに公開しています。

・スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の被害防止対策について

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/sukumi/sukumi.html>

・スクミリンゴガイの防除支援マニュアル

麦

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
麦	赤かび病	東海、四国、北九州	中国

・赤かび病の発生が、東海、四国及び北九州の一部の地域で多くなると予想されており、三重県、愛媛県及び佐賀県から注意報が発表されています。本病害は、病原菌がかび毒を産生するため、感染しやすい時期を捉えた防除が重要であり、下表のとおり、麦の種類ごとに防除適期が異なります。昨冬から今春にかけて全国的に気温が高かったため、麦の生育が当初の予測よりも早まる可能性があります。都道府県が発表する発生予察情報等を参考に、初回防除、追加防除のいずれも適期に防除を実施してください。なお、防除適期に降雨が続く場合は、降雨の合間に防除を実施してください。

麦の種類	最初の防除を行う生育時期
小麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで
二条大麦	穂揃い期の10日後頃
六条大麦	開花を始めた時期から開花最盛期まで

- ・麦類のデオキシニバレノール、ニバレノール汚染の予防及び低減のための指針
参照URL : https://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/risk_analysis/priority/kabidoku/index.html#mugi

野菜・花きで各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
いちご	ハダニ類	北陸、東海、九州	北関東、中国、四国
	アザミウマ類		東海、中国、四国、九州
	アブラムシ類		関東、東海、中国、四国
	コナジラミ類	四国	東海
	うどんこ病	東海、中国	北関東、四国、九州
	灰色かび病	四国	中国
きゅうり	べと病	四国、南九州	関東、東海、四国
	灰色かび病		南関東、東海、四国
	褐斑病	北九州	北関東
たまねぎ	アザミウマ類	四国	北海道
トマト	コナジラミ類	四国、南九州	南関東、北陸
	黄化葉巻病	北関東、四国	南九州
	うどんこ病	北関東、南九州	
	灰色かび病	四国	東海
なす	灰色かび病		近畿、中国、四国
ねぎ	アザミウマ類	四国、北九州	近畿

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

いちご

・ハダニ類の発生が、北陸、東海及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避け、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

また、農薬散布に加え、ほ場内及びその周辺の除草や、天敵による生物的防除等を組み合わせた防除の実施についても検討してください。

きゅうり

・べと病の発生が、四国及び南九州の一部の地域で多くなると予想されています。本病は多発すると防除が困難となるため、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。本病は薬剤耐性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避けるなど、薬剤を適切に選定してください。

また、本病は、窒素肥料の過多や、多湿条件で多発しやすくなるため、適切な施肥管理や施設内環境の管理を実施してください。

果樹・茶

果樹・茶で各地の平年値より発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及びその地域

作物名	病害虫名	発生が「多い」と予想される地域	発生が「やや多い」と予想される地域
かんきつ	ハダニ類	東海、四国、九州	南関東
	そうか病		近畿、中国、四国、九州
	かいよう病	東海、九州	
なし	黒星病	中国	東海、北九州
果樹共通	果樹カメムシ類	近畿、北九州	中国、四国
茶	ハダニ類	南九州	近畿、北九州

注) 表中の地域については、必ずしもその全域で発生が見られるものではありません。

かんきつ

・ハダニ類の発生が、東海、四国及び九州の一部の地域で多くなると予想されています。発生密度が高くなってからでは防除が困難となるため、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に、ほ場の観察をきめ細かく行い、発生初期に防除を実施してください。なお、本虫は薬剤抵抗性が発達しやすいので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考に同一系統薬剤の連用を避け、効果の高い薬剤を適切に選定してください。

また、農薬散布のみならず、園地内やその周辺の下草や雑草の管理を実施してください。

果樹共通

・果樹カメムシ類の発生が、近畿及び北九州の一部の地域で多くなることが予想されており、佐賀県から注意報が発表されています。

本虫は、山林等の越冬場所から離脱した成虫が春の気温の上昇とともに餌を求めて移動し、果樹全般を加害します。一部の都道府県では、冬期の越冬量調査の結果、平年より多い越冬個体数が確認されており、これらの地域では特に果樹への加害を警戒する必要があります。また、平均気温が高いと予想されている地域では、越冬した果樹カメムシ類が早期に活動を再開するおそれがありますので、園地への早期飛来に注意してください。果樹カメムシ類の飛来状況は地域や園地により異なるので、都道府県の発表する発生予察情報等を参考にしつつ、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。本虫は薄暮期から夜間を中心に活動するため、夕方の薬剤散布が効果的です。

・カメムシ類の防除

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/kamemusi.html#kajyukamemusirui>

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

令和8年3月11日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

発表はありません。

注) 重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

注意報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月25日	佐賀県	果樹全般	果樹カメムシ類
3月27日	沖縄県	さとうきび	カンシャワタアブラムシ
4月3日	三重県	ムギ類	赤かび病
4月7日	鳥取県	ニホンナシ	黒星病
4月8日	香川県	ネギ、タマネギ、ニンニク、 施設野菜、花き類等	ネギアザミウマ
4月10日	愛媛県	ムギ類	赤かび病
4月13日	佐賀県	ムギ類	赤かび病

注) 警報を発表するほどではありませんが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

特殊報

発表月日	都道府県	対象作物	対象病害虫
3月23日	神奈川県	シネラリア	キク茎えそウイルス (CSNV)
3月27日	神奈川県	ダイコン	ダイコン褐斑細菌病 (仮称)
4月7日	愛知県	キャベツ	テンサイシストセンチュウ
4月9日	広島県	トマト	トマト黄化病

注) 各都道府県において、新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合であって、従来と異なる防除対策が必要となるなど、生産現場への影響が懸念

される場合に発表します。

病虫害の生態等の生物学的情報や防除に関する情報の詳細については、各都道府県の病虫害防除所のホームページ等を参照してください。

見慣れない病虫害被害が発生していた場合の対応

我が国未発生又は我が国の一部のみが発生している重要病虫害が、万が一国内の未発生地域に侵入した場合、国内の農業生産に重大な損害を与えたり、農産物の輸出を阻害するおそれがあります。こういった重要病虫害の侵入に伴う国内の農業生産や輸出への影響を防止するためには、国内の未発生地域への重要病虫害の侵入を早期に発見し、速やかに的確な防除を実施することが重要です。

農作物に見慣れない病虫害被害が発生していた場合には、最寄りの植物防疫所又は都道府県の病虫害防除所等にお知らせください。

植物防疫所の連絡先

参照URL：<https://www.maff.go.jp/pps/j/introduction/domestic/dsinnyuu/221121.html>

都道府県の病虫害防除所の連絡先

参照URL：<https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/yosatu/boujoshu.html>

用語解説

(地域)

北海道：北海道

東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

北東北：青森県、岩手県、秋田県

南東北：宮城県、山形県、福島県

関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

北関東：茨城県、栃木県、群馬県

南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

甲信：山梨県、長野県

北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県

東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県

四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県

北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県

南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県

沖縄：沖縄県

(発生量(程度))

多い(高い)：やや多いの外側10%の度数の入る幅

やや多い(やや高い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

平年並：平年値を中心として40%の度数の入る幅

やや少ない(やや低い)：平年並の外側20%の度数の入る幅

少ない(低い)：やや少ないの外側10%の度数の入る幅

(平年値は過去10年間の平均)

(参考) 今後の発表予定日

第2号：令和8年5月13日（水曜日）

第3号：令和8年6月10日（水曜日）

第4号：令和8年7月8日（水曜日）

第5号：令和8年7月23日（木曜日）

第6号：令和8年8月5日（水曜日）

第7号：令和8年9月9日（水曜日）

第8号：令和8年10月7日（水曜日）

第9号：令和8年11月11日（水曜日）

第10号：令和9年3月10日（水曜日）

【お問合せ先】

消費・安全局植物防疫課

代表：03-3502-8111（内線4562）

ダイヤルイン：03-3502-3382